

## 第二章 川南町教育の現状と課題

### 1 就学前教育（注1）について

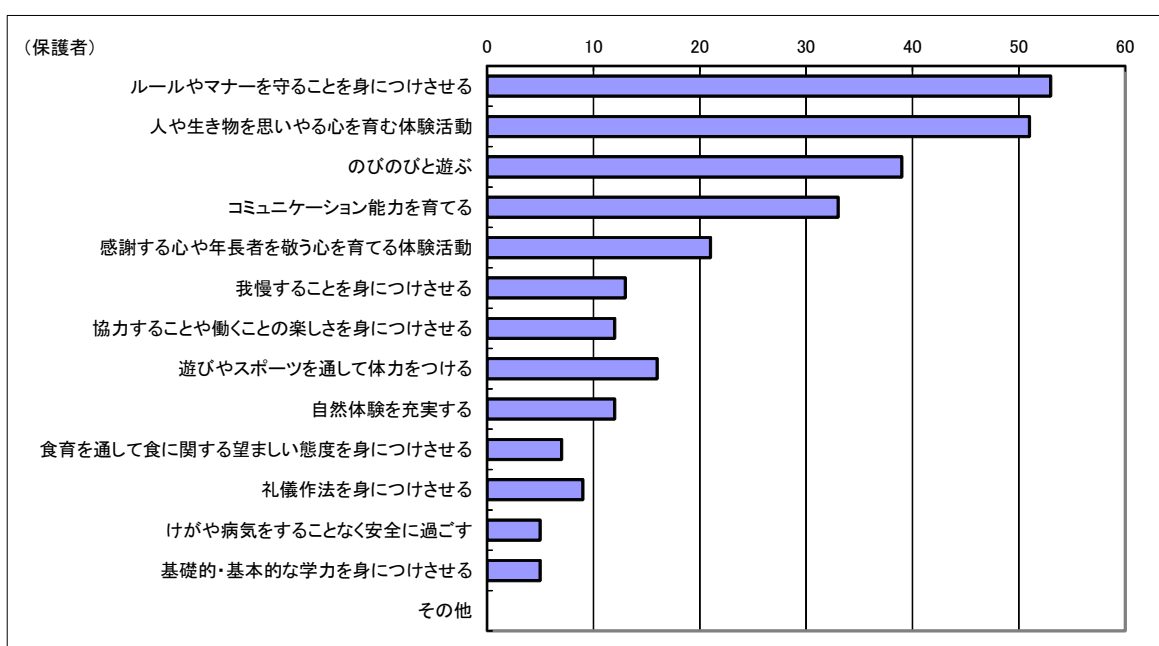
本町には、2保育所、4保育園、2私立幼稚園（注2）があります。町内の就学前の子どもたちのほとんどが保育所や幼稚園を卒園し、小学校へ就学しています。

県の調査結果では、幼稚園の教職員や保育所の保育士、就学前の子どもの保護者は、「ルールやマナーを守ることを身に付けさせる」ことや「人や生き物を思いやる心を育む体験活動」、「のびのびと遊ぶ」ことなどを重視した教育や保育の充実を望んでいます。一方で、教職員や保育士は、小学生や中学生、高齢者との交流活動の充実が必要であると考えています。

本町では、実際に小学校との交流活動をほとんどの施設で実施していますが、合同研究会や授業交流等合わせて年間12回程度であり、1施設当たりの交流回数は多いとは言えない状況です。

今後は、さらに子どもの自立心を育て、人とかかわる力を育む教育や保育を推進するとともに、子どもたちの成長を促すための教育環境の整備・充実が必要です。

#### 【幼稚園や保育所等ではどんな教育・保育を充実していけばよいか】



宮崎県就学前教育調査（平成22年7月）

#### 【小学校と保育所等における交流活動の実施状況】

合同研究会・・・3回 学校間連絡会議・・・5回 授業交流・・・4回

ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）

（注1）「就学前教育」：概ね3歳以上の幼児期の教育や保育（家庭教育を含む。）

（注2）2保育所：町立中央保育所、町立番野地保育所

4保育園：めぐみ聖母保育園、石井記念十文字保育園、川南東保育園、石井記念川南保育園

2私立幼稚園：川南幼稚園、平成幼稚園

## 2 学校教育について

### (1) 児童生徒数の推移

本町の総人口は16,444人(H26.4.1)で、平成2年の18,371人から、この24年間で1,927人減少しており、これから国や県の推移同様に本格的な少子高齢・人口減少時代を迎えようとしています。

児童生徒数については、平成24年度から平成29年度にかけて、115人の減少が予想されています。

#### 【児童生徒数の推移】

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
川南小学校	474	476	475	477	465	484
通山小学校	231	220	228	217	207	193
東小学校	140	141	132	126	120	131
多賀小学校	91	91	89	95	87	76
山本小学校	69	62	55	54	51	53
小計	1005	990	979	969	930	937
唐瀬原中学校	333	312	310	297	295	270
国光原中学校	190	202	187	207	195	206
小計	523	514	497	504	490	476
合計	1,528	1,504	1,476	1,473	1,420	1,413

川南町教育委員会調査(平成26年5月)

### (2) 学力の状況

みやざき小中学校学習状況調査(注1)の結果では、小学5年生では、社会科の活用に関するB問題は県平均より上回っていますが、その他は県平均を下回っているという状況です。また、本町の中学2年生については、県平均を概ね上回っている状況にあります。

このようなことから、学力を確実に身に付けるための取組が必要です。特に小学校段階からの「活用する力(注2)」を高める指導の充実が必要です。

#### 【みやざき小中学校学習状況調査結果の県との比較(H25)】

##### 小学5年生

	国語		社会		数学		理科		合計
	A	B	A	B	A	B	A	B	
県全体	62.3	52.1	78.7	48.4	72.6	49.5	81.2	51.8	276.5
川南町	55.2	41.6	76.2	50.9	66.4	39.4	77.3	46.3	255.8

##### 中学2年生

	国語		社会		数学		理科		英語		合計
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
県全体	65.1	73.3	66.1	49.0	63.4	50.0	62.3	29.8	59.8	29.2	298.9
川南町	67.4	63.7	64.6	47.3	67.3	58.3	64.4	28.9	57.1	26.4	300.8

※ 数字は正答率 正解した問題数÷全問題数×100(%)

※ Aは知識に関する問題、Bは活用に関する問題

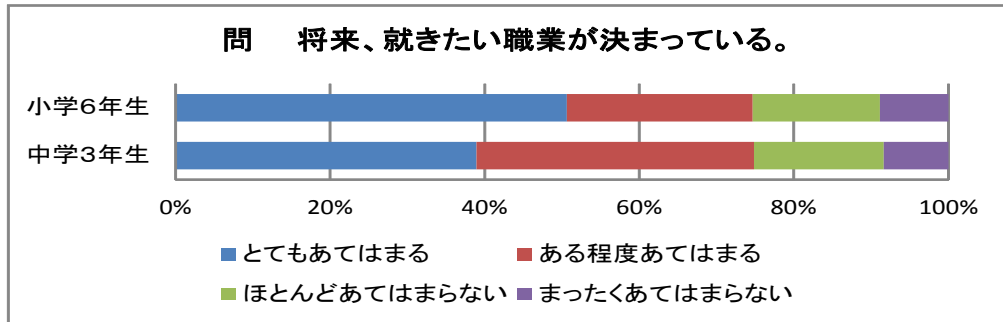
(注1)「みやざき学力・学習状況調査」：宮崎県教育委員会が、県下の児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることなどを目的に、平成23年度から小5、中2を対象に実施している調査

(注2)「活用する力」：身に付けた知識・技能をもとに、自ら考え、判断し、表現しながら課題を解決する力

(3) 将来の職業に関する意識

町の調査では、将来就きたい職業について「とてもあてはまる」又は「ある程度あてはまる」と回答した児童生徒は、小・中学生ともに7割を超えています。一方で、小・中学生の約1割が将来の職業について「まったくあてはまらない」と回答しています。

夢や希望を持って将来の生き方や進路を考え、自分の将来を設計することは、社会人、職業人として自立していく上でたいへん重要なことであり、今後、小・中学校が一貫してキャリア教育(注)に取り組むことが大切です。



ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）

(4) 生徒指導の状況

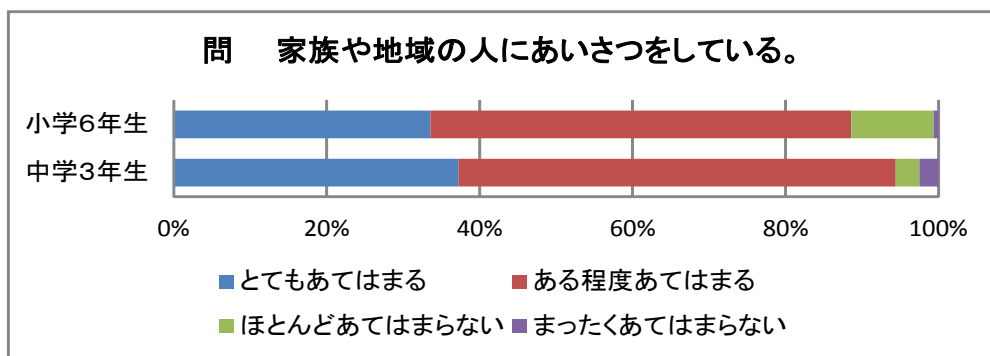
本町の不登校や暴力行為、いじめなどの発生率は、全国との比較では低い状況が続いています。平成25年度の小・中学校における不登校の発生率は、全国でも低く、川南町においては不登校児童生徒は11名で、平成26年度は5名（H26.4）で、全てが中学生となっています。

今後は、これらがさらに減少するよう、教師と子どもたち、保護者との信頼関係づくりを基盤としながら、学校、家庭、地域における体制づくりなど、これまでの取組をさらに充実させていくことが重要です。

(5) 道徳心に関すること

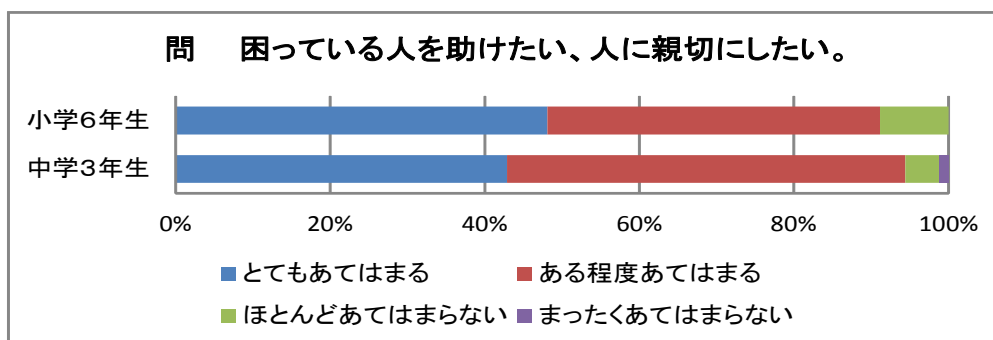
町の調査では、「家族や地域の人にあいさつをしている」や「困っている人を助けたい、親切にしたい」などの意識に関する項目では、小・中学生ともにほぼ9割が肯定的な回答をしており、本町の子どもたちの状況は、概ね良好であると考えられます。

今後も、子どもたちの道徳心や規範意識を育むために、学校や家庭、地域がより一層の連携をし、子どもたちの健全育成に取り組んでいくことが大切です。



ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）

(注)「キャリア教育」：一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる教育



ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）

(6) 体力の状況

本町の子どもたちの体力、運動能力の状況は、全国、県と同様に昭和60年ごろをピークに低下傾向がみられましたが、学校等での取組により徐々に上昇傾向に転じています。

本県と本町平均との比較でも、概ね良好な結果を示しています。しかし、子どもたちの運動への取組については、二極化が見られるなどの課題も明らかになっています。

今後は、これまでの取組をより充実させるとともに、子どもたちが日常的に運動、スポーツに親しむ環境づくりを進めていくことが必要です。

平成25年度新体力テスト結果											川南町			
県平均を50とした市町村の偏差値											○ 県平均以上の項目			
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ					
小学1年男子	47.0	48.0	49.5	48.3		43.4	54.3	46.3	48.6					
小学2年男子	49.3	49.9	49.9	51.0	○	52.4	52.5	49.3	50.5	○				
小学3年男子	49.2	50.8	50.4	50.3	○	50.0	51.4	48.3	50.2	○				
小学4年男子	49.4	50.7	50.5	50.2	○	50.7	50.6	48.5	50.1	○				
小学5年男子	47.9	47.1	49.0	48.2		47.7	50.0	47.4	47.4					
小学6年男子	50.0	49.7	50.8	50.5		50.5	50.1	49.5	49.4					
中学1年男子	53.3	52.4	48.9	48.8	46.0	53.6	47.1	51.7	55.4	○				
中学2年男子	55.4	54.0	47.2	50.0	49.8	50.9	47.3	49.2	51.2	○				
中学3年男子	55.3	54.1	50.7	50.6	51.4	50.6	46.2	53.5	49.3	○				
小学1年女子	48.3	49.0	52.2	47.9		45.6	54.4	48.8	50.1	○				
小学2年女子	49.3	49.3	52.0	50.2	○	51.0	52.0	48.8	49.5					
小学3年女子	48.3	48.9	50.1	48.4		50.6	51.6	49.0	50.2	○				
小学4年女子	48.6	49.1	52.4	50.8	○	53.7	50.4	49.7	51.3	○				
小学5年女子	47.9	48.4	50.1	48.9		48.8	50.2	47.5	52.0	○				
小学6年女子	49.0	48.4	49.4	49.0		52.0	51.8	48.7	50.3	○				
中学1年女子	55.8	51.3	51.5	50.2	47.8	52.0	46.9	52.0	54.0	○				
中学2年女子	52.8	53.3	47.6	50.9	49.1	52.1	46.8	53.7	53.4	○				
中学3年女子	56.3	53.6	53.6	50.9	53.2	49.9	43.5	54.6	53.2	○				

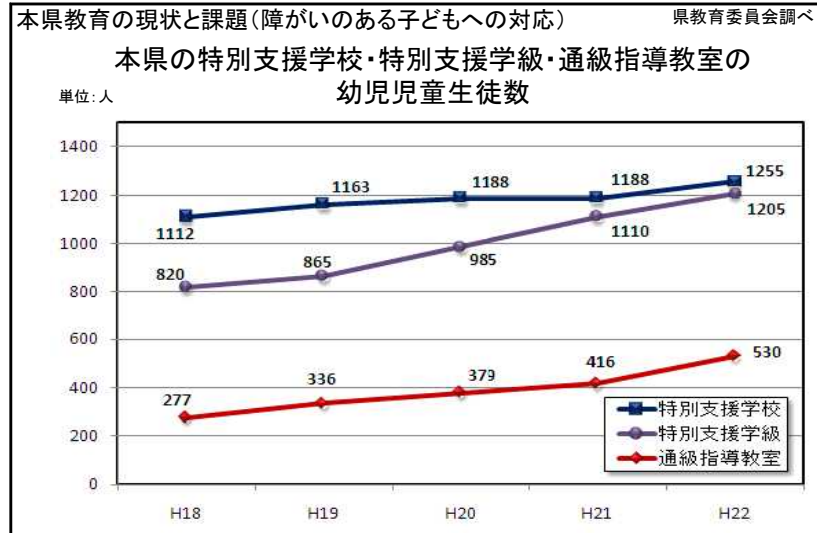
全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省H25年5月)

(注)「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」：文部科学省が全国的な子どもたちの体力の状況を把握・分析することにより、子どもたちの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に、平成20年度から小5、中2を対象に実施している調査。その中で、実技調査として、「握力」、「上体起こし」等新体力テスト（小学校8種目、中学校9種目）が実施されており、男女の総項目数は34項目となる。

(7) 障がいのある子どもへの対応

川南町においても、全体の児童生徒数が減少傾向にある中で、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒は増加を続けています。また、通常の学級に在籍しながら通級指導教室で指導を受けている児童生徒も増加しています。

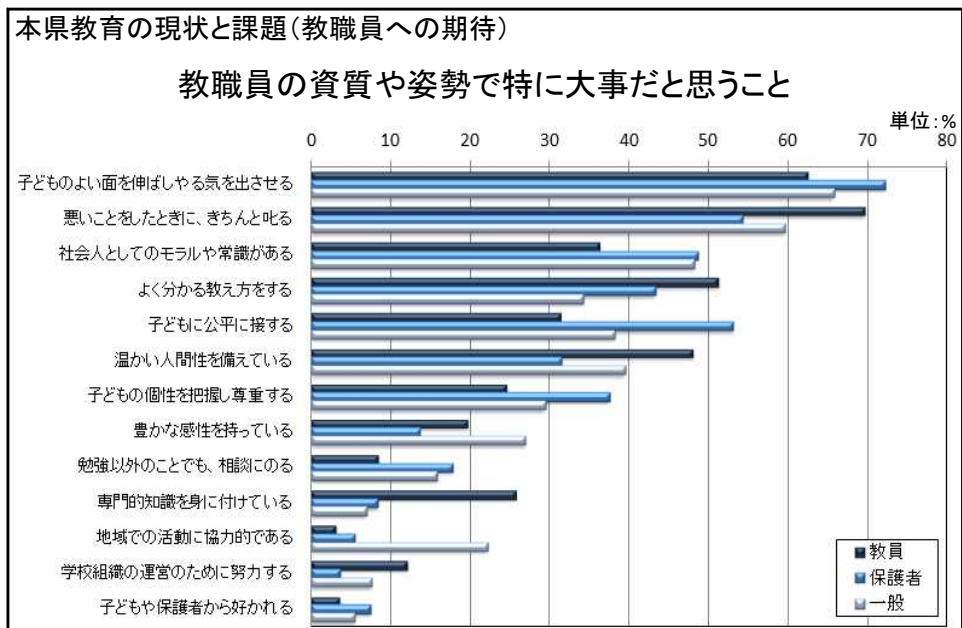
このようなことから、子どもたちの障がいの状況を的確に把握し、一人一人の教育的ニーズに基づいた適切な支援を行うなど、すべての学校における特別支援教育(注)の一層の充実が求められています。



(8) 教職員への期待

県の調査結果では、教職員の資質や姿勢で特に大事だと思われることは、「子どものよい面を伸ばし、やる気を出させること」「悪いことをしたときに、きちんと叱る」、さらには、「社会人としてのモラルや常識がある」などが挙げられており、子どもたちに対する専門的な指導力や幅広い社会性などの向上が求められています。また、教職員に、仕事量や授業以外の校務などに不安や悩みがあることもわかりました。

このようなことから、今後は、今まで以上に教職員の資質向上の取組を推進していくことが重要です。また、教職員の不安や悩みを解消することや心身の健康対策を充実させていくことも大切になります。



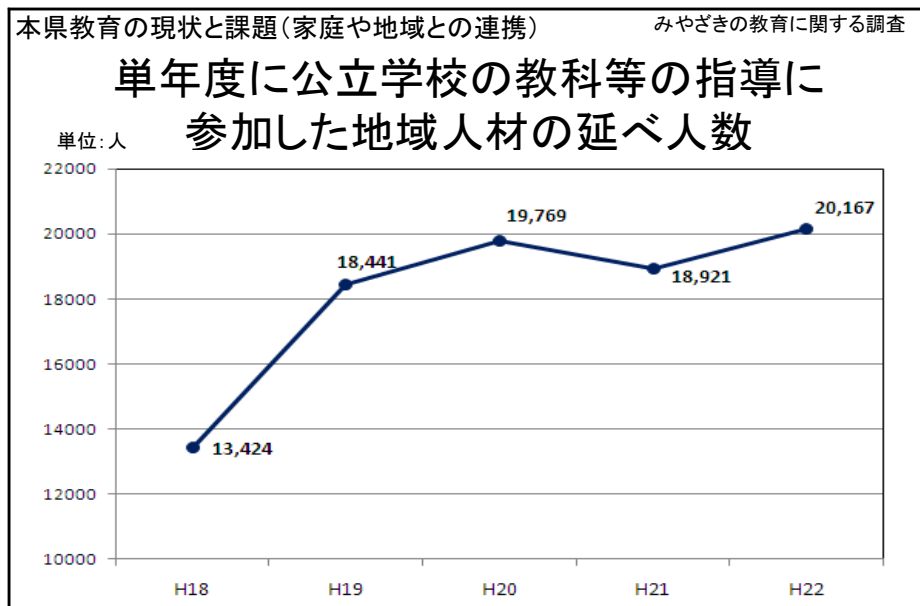
(注)「特別支援教育」: 障がいのある子どもたちなどに対し一人一人の教育的ニーズを把握し、子どもたちの持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育を通じて必要な支援を行う教育

(9) 家庭や地域との連携

県の調査では、学校の教科等の指導に参加した地域住民の人数は増加傾向にあり、地域で学校教育を支援する取組である学校支援地域本部の数も増加しているなど、学校支援の取組は広がりをみせています。

本町においては、行事等において、地域と連携した取組は見られるものの、学校支援地域本部事業のような組織だった取組はありません。また、オープンスクールの実施状況も100パーセントにはなっていません。

地域全体で子どもを育む取組を推進するためにも、今後は、学校と家庭や地域との連携体制をより充実させることが重要となります。

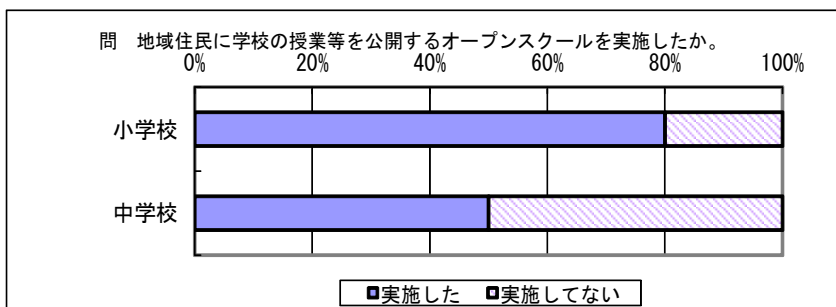


【平成25年度 地域の方々と連携した取組をした各学校の状況】

	実施回数	参加延べ人数
小学校	47回	312人
中学校	11回	116人

ふるさと川南の教育に関する調査(平成25年8月)

【オープンスクール実施状況】



ふるさと川南の教育に関する調査(平成25年8月)

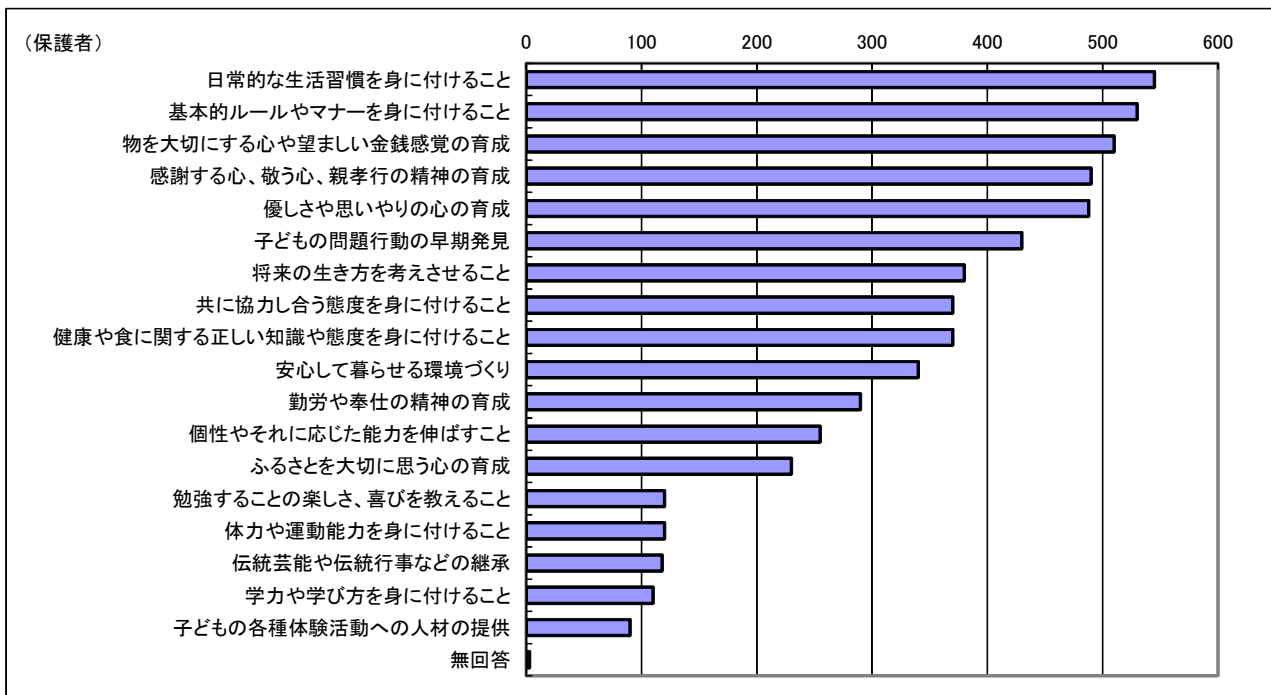
### 3 家庭や地域の教育について

#### (1) 家庭の教育力

家庭は、すべての教育の出発点であり、本県における保護者対象の調査結果からも、家庭の役割として、基本的な生活習慣や規範意識、道徳心の育成などが重視されています。一方で、家庭の教育力の低下が懸念されており、国の調査結果でも、多くの保護者が家庭の教育力が低下していると感じている状況があります。

今後は、家庭教育の在り方に関する学習機会や情報の提供の充実等に一層取り組むとともに、社会全体で家庭での教育を支援していく体制を構築していく必要があります。

#### 【保護者が考える家庭が担うべき役割】

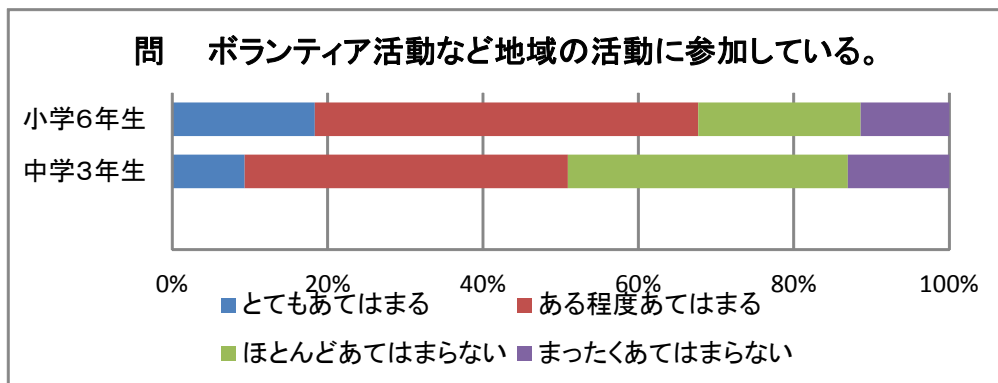


みやぎの教育に関する調査（平成22年2月）

#### (2) 地域の教育力

近年、核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などにより、地域の教育力の低下が指摘されています。町の調査結果では、地域の活動に参加している子どもの割合は、参加している（「とてもあてはまる」）、またある程度参加している（ある程度あてはまる）は、小学生では6割を超えるが、中学生では約半数という結果です。

このようなことから、地域では、普段から学校や家庭と連携した様々な活動を通して、子どもと地域住民や地域住民同士の結びつきを強める機会を工夫するなど、地域の子どもは地域で育てる機運を高めていくことが必要となります。



ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）

#### 4 生涯学習やスポーツ、文化活動について

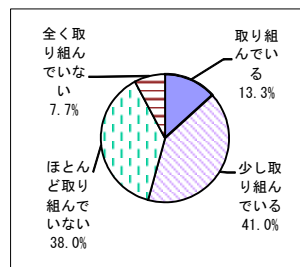
##### (1) 生涯学習

【日頃から生涯学習に取り組んでいますか。】

社会情勢が激しく変化し、高齢化した社会では、町民一人一人が生涯を通じて学び、自らを磨き高め、自己実現を図る生涯学習の取組がますます重要となります。

本町の調査結果でも、生涯にわたって学習する環境をつくるためには、公民館などでの講座や教室を充実させることや講座等の情報を広く提供することなどが求められています。

今後は、講座や教室での学習内容の充実や生涯学習情報の整備と活用などを進めることが大切です。また、習得した知識や技術等の学習成果を、地域や社会の中で生かすことができるような環境の整備も必要となります。



ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）

##### (2) スポーツ活動

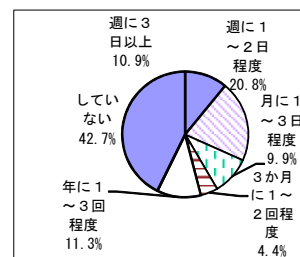
スポーツは、個人の心身の健全な発達が重要であり、最近では、健康、体力づくりに対する意識の高まりがみられます。しかしながら、町の調査結果では、週に1回以上運動・スポーツを行っている町民の割合は、3割弱という状況です。

今後は、生涯にわたりスポーツに取り組む町民意識の高揚などを目的とした、スポーツを支える環境の一層の充実を図ることが必要です。

また、競技スポーツの分野は、町民のスポーツへの関心を高め、感動や夢を与えるなど活力ある地域社会の形成に大きく貢献するものです。

今後は、少年期からの一貫した指導体制の確立や指導者の養成など、長期的な視点に立った取組が必要です。

【運動・スポーツの状況】



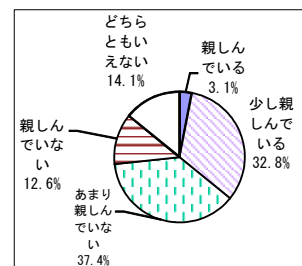
ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）

##### (3) 文化活動

文化活動は、創造や体験を通じて暮らしに潤いや感動を与えるものであり、町民の誰もが日常的に文化にふれることができる環境の整備が重要です。しかしながら、町の調査結果では、音楽、美術の鑑賞や趣味の実践など日頃から文化に親しんでいる町民の割合は、4割弱に留まっている状況があります。

今後は、町民一人一人が生涯を通じて文化に親しもうとする意識の高揚や気軽に文化活動に取り組むことができる環境の充実が必要です。

【文化に親しんでいる状況】



ふるさと川南の教育に関する調査（平成25年8月）